福岡教区のアプリができました。スマートフォンで教区情報を簡単に得ることができます。詳細は教区ホームページでご確認ください。

カトリック福岡教区報

ヨゼフ アベイヤ司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人　カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-4059
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　1部70円

宣教司牧方針　アンケートに協力を

歩み続けることの大切さ

ヨゼフ・アベイヤ司教（福岡教区長）

2年前に準備が始まった今回のシノドス（世界代表司教会議）は、地方教会レベルから地域・大陸レベルの歩みを経て、通常シノドス第16回総会―第1会期（2023年10月4日～29日）がローマで開催された。

福岡教区は教区全体の協力のもと、2年におよぶ準備の末、2022年復活祭に信者の声を基に「宣教司牧方針」を発表した。ヨゼフ・アベイヤ司教は、発表からこれまで約2年間の教区・小教区の取り組みを振り返り、ともに歩み続けることの大切さを強く呼びかけている。

第16回シノドスの様子～従来の議長席と会場という対面式でなく、グループごとに分かれ、議題を分かち合う形が取られた

シノドスの歩み

ローマで、第16回通常シノドスの会議が10月4日から始まりました。教区報が届くときには、既に会議は終わっています。

ローマで、教皇フランシスコとともに集まった兄弟姉妹たちは、全世界の教会の二年間の歩みを踏まえて、現代における教会の在り方と福音を宣べ伝える道を探りながら、「ともに歩む」教会の姿を示してくださいました。

シノドスの歩みはあと一年続きます。聖霊に導かれた歩みになることを心から祈りましょう。もう一度、全世界の教会の参加が求められます。

私たち福岡教区の歩み

福岡教区で2022年の復活祭に「宣教司牧方針」が発表されました。教区全体の2年間のプロセスの実りでした。今までの伝統を受け継いで、これからの教区の歩みを方向付ける大事な道のりでした。

その時から、二年が経とうとしています。二年間を振り返る必要を感じて、皆さんに簡単なアンケートをお願いすることにしました。

教区の「宣教司牧方針」は、一人ひとりの信仰を深めるためにどのように役立ったか、どのように、小教区や教区の活性化につながったかを振り返る必要があります。

宣教司牧方針の中には、皆さんから寄せられた提案や意見から得られた多くのヒントが盛り込まれています。それらはどのように受け止められているのでしょうか。

小教区を訪問すると、「宣教司牧方針」に対して様々な姿勢が見えてきます。真剣に取り組んでいる小教区があれば、あまり目を向けていない小教区もあります。残念ながら、「宣教司牧方針」をほとんど無視しているところもあります。主任司祭や教会の役員会の皆さんに、「宣教司牧方針」で提案されている色々なヒントを読み直し、話し合って自分たちの状況に併せて実行していくようにお願いいたします。すべての小教区や地区、修道院、施設を助けるために「宣教司牧方針」を皆で作りました。皆で実行しましょう。

教区として、いくつかのことは既に実現されています。教区の宣教司牧評議会の立ち上げ、大濠カトリック会館・宣教養成センターの設立、各委員会の充実等です。また、各小教区でも様々な活動が行われています。嬉しいことです。

どうか皆さん、アンケートに応えながら、よい分かち合いのときに恵まれるように心から祈ります。皆さんのご協力を感謝いたします。ともに歩み続けて行きましょう。主がともにおられます。

ヨゼフ・アベイヤ

11月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【教皇の意向】　教皇

【日本の教会】　死者

訃報

洗礼者ヨハネ 深堀 勝人（まさと） 神父（福岡教区司祭）

2023年10月24日（火）、肺がんのため、聖マリア病院（福岡県久留米市）にて帰天。享年72。司祭生活45年。

【略歴】
1951年2月5日　佐賀県伊万里市伊万里町に生まれる。
1969年4月　福岡サン・スルピス大神学院（現：福岡カトリック神学院）入学
1978年4月　大名町教会にて司祭叙階　教区司教館付き 教区会計補佐
1979年4月～西新、小倉教会助任
1986年9月～行橋教会主任
1991年4月～教区会計担当
1994年4月～飯塚、田川、戸畑、佐賀、湯川、門司、小倉教会主任
2023年4月　司教館付き　病気のため聖マリア病院で療養。

司祭として宣教・司牧に従事されるとともに各地の幼稚園の園長や理事長を兼任されました。深堀勝人神父様の永遠の安息をお祈りください。

―お詫びと訂正 ―

【教区報10月号　訃報】
×Sr. 黒澤田　鶴子⇒○Sr. 黒澤　田鶴子
関係者の皆さまには心よりお詫び申し上げます。

時の話題

聖書とわたし

私にとって聖書とは、神のみ旨に沿って歩んで行くための力強い支えであり、また、聖書に出てくる登場人物と自分自身とを照らし合わせ、心の弱い部分を認識すると共に、回心するための機会でもあります。

ただ、聖書を自らで読んだだけでは勝手な解釈で受け取ってしまい、内容を正しく理解できていない可能性があるので、神父様のオミリア（説教）に耳を傾け、解釈に相違が無いか、私に問いかけられていることは何であるのか、神との関わり、人との関わりで大切にすべきことが何であるのか、考える時間を大切にしています。

また、聖書についての親しみ方、聖書をより正しく理解するための機会として、北九州地区宣教司牧評議会主催のレナト・フィリピーニ神父様による聖書講座に3回目まで参加させていただきました。

聖書講座を通して一番心に響いたところは、「シェマ＝聞き、従う」で、聞き従う、このことは信者として当然と言えば当然、当たり前のことではありますが、聖書を読むだけ…、話を聞くだけ…で終わってはいないか、従う＝実行、実践することがどれだけできているのだろうかと、私自身の胸に突き刺さりました。

聖書に書かれている主イエス・キリストや弟子たち、またその後を受け継いだ使徒たちの宣教は、ただの歴史ではなく私たちに託された使命であることを改めて実感しました。

最後の聖書講座4回目が11月19日（日）14時から直方教会で行われますが、聖書講座で学んだことを心に刻み、神の招きにふさわしい者となれるように歩んでいこうと思います。

黒崎教会　宮本　精彦（きよひこ）

第2回　教区全司祭集会

信者の声に耳を傾ける

9月26日（火）10時30分から16時まで、カテドラル大名町教会にて今年度2回目の教区内全司祭集会が開かれた。今回のテーマは「シノドス・共に歩む教会をめざして」。5人の信者の方の声に耳を傾けながら、今の社会、教会の現状を知り、これからの司祭としての宣教司牧のあり方を考えることを目指した。

全司祭集会は年4回開かれており、テーマに基づいて講師の話を聞き、それをもとにグループで分かち合う形式がとられていたが、今回は、シノドスの流れの中で、共に歩む教会を目指すために、信者の皆さんの声に耳を傾ける方法がとられた。

以下の5人の方が生活の中での神との結びつきを分かち合ってくださった。

大水あかりさん［ポルトガル・リスボンのワールド・ユースデーに参加、武蔵ヶ丘教会］、朝井大輔さん［笹丘教会］、柚淑眉（そまきよみ）さん［光丘教会］、深堀純（きよし）さん［大名町教会］、シスター藤田優香さん［礼拝教会］。

20～30分の持ち時間の中で、青年として、学校の教師として、主婦として、高齢者として、修道者として、それぞれの生活の場において、神との結びつきの中での信仰体験が語られた。それは皆、現実の日々の生活の中での生き生きとした体験で、分かち合いを聴いた司祭たちに感動と感銘を与えるものであった。

午後は近くの席の参加者が小グループを作り、5人の発表をもとに感想などを分かち合った。このグループには4人の信者の方も加わった。小グループでの分かち合いは後日レポートとしてまとめられ参加できなかった司祭にも分かち合われた。

分かち合いのレポートからの司祭の声。

神父は人には話す機会が多くあるが、聞く機会はない。もっと話を聞かなければ／もっともっと信徒を信じて、協働する決意を持たなければならない／信者さんの話は、悲観的なものがなかった／信仰生活の場で感じていることを分かち合っていただいた／失敗を恐れず、チャレンジする姿を見せていただいた。計画が完全な形になるのを待っていたら、いつまでもできない。

発表者からも、司祭と分かち合える機会を持てて嬉しかったという声が聞かれた。次回は11月28日に開かれる。

講師として登壇した信者の皆さん

みちくさ

最近またAIが注目を浴びています。ＣｈａｔＧＰＴとかの人工知能ですが、発展する人工知能は良い道具です。しかし、包丁も使い方を誤って人を害する可能性があるように、このAIも使い道をよく考えなければなりません。倫理的にこのAIには何の問題があるか、今後カトリックはどのようにこのAI問題に接すればよいのか▼教皇フランシスコはフェイクニュースの問題点に関して語りました。このフェイクニュースの問題はなぜ生じるか。昔、新聞とテレビの時代、マスコミは倫理的な訓練を受けた人が主に発信しました。しかしＳＮＳという道具ができてマスコミの役割を代替するようになりました。ですが、ＳＮＳを利用する人は倫理的な教育を受けたことのない人が大多数です。問題はそこから生じます。いまのAIもそれと同じ問題を指摘されています。例えば、ＣｈａｔＧＰＴに「嘘の内容でそれっぽい記事をお願い」、また他のAIに「それに合う写真をお願い」と命令すると1分経たないところで本物みたいな記事と写真ができます。道具自体に善とか悪とかはありませんが、それを利用する人が悪い意図で使うとそれは悪です。実際に被害は現在進行中です▼こういう状況で私たちキリスト者はどうすればよいのか。道具を正しく利用するためには正しい利用の方法を学ばなければなりません。もちろんこのAIに関しては「わけのわからないもの」だと考えるかもしれません。しかし、真理を信じ伝えるものとして、正しく利用し、人に勧めるためには、AIに関してよく知る必要があります。（J）

◆ 福岡教区宣教司牧方針を受けて ◆

2022年4月、福岡教区の「宣教司牧方針」が発表されました。教区報では、「宣教司牧方針」を受け、各小教区や団体で取り組んでいること、心がけていることなどについて具体的な活動を紹介しています。

「宣教司牧方針」は右記QRコードからご覧になれます

宣教司牧方針アンケート

昨年の復活祭に福岡教区の宣教司牧方針を発表しました。皆様の手元に今もパンフレットをお持ちでしょうか？

宣教司牧方針がどこまで浸透しているか、実践に結びついているか、準備委員会としても気になりますし、私自身も振り返る必要があると思っています。9月に久しぶりに委員会のメンバーが集まり、振り返るためのアンケートを準備しました。個人でも答えられますし、何人か集まってグループとして答えていただいてもけっこうです。分かち合いの機会ともなれば幸いです。

善きサマリア人

宣教司牧方針のパンフレットはイエスさまの「恐れることはない」（マルコ6･50）という聖書のことばから始まります。一歩踏み出そうとする背中を押してくれます。教区としての歩みを知ることも大切だと思います。アンケートに答える前に、ぜひ読み返してみてください。

アンケートでは、司牧方針パンフレットに記した「実行するためのヒント」を中心に、どのような取り組みが実践されているかを問う内容にしました。取り組みの強いところ、弱いところがアンケートの結果から見えてくると思います。それをもとに、さらなる活動の活性化につながればと願っています。

私自身は教区行事や地区聖書講座への参加を意識するようになりました。また、宣教司牧方針の中には、末尾に「～ますように」を加えれば共同祈願になるところもありますので、共同祈願を考えるときのネタ帳としてもパンフレットを利用しています。教会の外に向かって出向くには、まだまだ至っていませんが、一つひとつ自分にできることから実践していきたいと思っています。

宣教司牧方針準備委員会・委員　田中　拓（水巻教会）

第6回終身助祭の集い
札幌から沖縄まで参加

12年ぶりに対面で集う助祭・司教たち

10月2日(月)～4日(水)、カテドラル大名町教会を会場とし、第6回終身助祭の集い（カトリック中央協議会終身助祭養成委員会主催・松浦悟郎司教委員長）が開催された。現在、国内の終身助祭は29人在籍、内17人が参加（福岡教区は在籍者なし）。札幌から那覇教区まで参加、前回の沖縄開催以来12年ぶりの集合開催となった。

集いには、松浦担当司教（名古屋教区長）、現地のヨゼフ・アベイヤ司教も参加。テーマは「福音が語り掛けているもの―終身助祭の役割―」として、終身助祭間の分かち合いを中心に構成され、導入として若松英輔氏の講演、アベイヤ司教による講話、ミサ、美野島司牧センター訪問などがプログラムされた。

初日に各地で働く終身助祭の任務、現状、問題点を提起し、二日目はカトリック教会における現代の課題、キリストは何を訴えているかを社会的側面より探り出し、教皇の使徒的勧告「福音の喜び」などから、これからの10年の教会の向かう方向性を鋭く読み解いた。アベイヤ司教によるシノダリティについての講話では、識別のプロセス、教会のアイデンティティ、教会の在り方を解説され、「ともに歩む時、立ち止まっている人もいる。通り過ぎず無視せずこのような人に積極的に関わること、そこで出会いが生まれる」などが紹介された。

福岡教区の活動である美野島司牧センターでは、各担当者からの活動内容が発表され、まさしく小さな人々に向けられた支援活動は、教会での支援の原点を感じた。コース・マルセル神父（美野島司牧センター長、パリ・ミッション会）からの「ここを担当する終身助祭がほしい」という言葉には心が締め付けられた。三日目は、個々の集いの振り返りと派遣ミサが行われ、終了となった。

終身助祭養成委員会委員
終身助祭　石神秀人

ともに歩もう！“Together”
－テゼの歌と共に－の企画に携わって

キリスト教諸教派が一堂に会した聖堂は歌声に包まれた

今年1月、フランシスコ教皇は世界代表司教会議（シノドス）に先立ちエキュメニカルな集いを行う旨を発表し、フランスのテゼ共同体の協力で、9月末にローマで大規模集会が行われました。

これに合わせ、世界中でキリスト諸教派一致のために祈ろうと発足したのが“Together”です。テゼでボランティアをしていた私に日本担当のブラザーから連絡があり、10月1日（日）に大名町教会で実施することになりました。日本各地（東京・関西・仙台）の諸教派によるTogether担当者や、福岡教区のシノドス担当・十時伸治神父（光丘教会主任）と話し合い、当日は、教区の青年を中心とする有志たちと、日本福音ルーテル箱崎教会の和田憲明牧師を中心とする有志たちが準備しました。日本聖公会の武藤謙一首座主教はメッセージの中で、ともに歩むことについて東日本大震災当時を語りました。

私も震災ボランティアを通して命の大切さを教わり、ともに力を合わせれば乗り越えられると学んだことを思い出しました。ヨゼフ・アベイヤ司教（福岡教区長）は「ともに」と言う時、自分の隣にいる人だけでなく誰も耳を貸さない人とも共にいることの大切さについて述べました。

違う人とともに歩むことは、時に困難だからこそ何ができるか考え歩み続けていきたいと、教派を超えて多くの方と祈りながら思いました。

福岡地区青年会　井上友里子

水俣病問題からの考察
『回勅ラウダート・シ』が人類に語りかけるもの

福岡教区内にある水俣市。その問題に多くの方が関心を寄せ、講師の話に耳を傾けた

「水俣・福岡展２０２３」プレイベントの講演会「水俣病問題からの考察～教皇フランシスコの『回勅ラウダート・シ』が人類に語りかけるもの～」（カトリック福岡司教区社会福音化委員会主催、水俣フォーラム共催）は9月16日（土）、福岡市のカテドラル大名町教会で開かれた。講師らは自然環境と人間の健康や社会の健全性について触れながら、水俣病のような人為災害を二度と許せない気持ちを伝えた。講師は、上智大学神学部名誉教授で、『回勅ラウダート・シ』の翻訳者でもある瀬本正之氏（イエズス会司祭）と、水俣病患者の吉永理巳子氏（水俣市出身）。

講演会は、福岡教区長ヨゼフ・アベイヤ司教の挨拶で始まった。司教は人権や命、自然環境を尊重する重要性に触れ「今日の話を機に何らかの活動につなぐように」と、約70人の参加者に訴えた。

吉永さんは、水俣市の現在の光景や、子どもの頃の写真などを大型スクリーンに表示しながら、昔の日常生活や父親らの闘病の様子などを説明した。そして「父は死因が分からないまま早く亡くなった。今になって、父をはじめ水俣病で亡くなられた方々に伝えたいことがたくさんある」と悔しげに話した。

その後、瀬本神父の講演では、『回勅ラウダート・シ』に触れながら「人間が作りだす全てのものは最終的に捨てられ自然が請け負う。自然を守る事は自身を守る事。決して他人事でない」と強調した。

熊本市から参加した50代の女性は「創造主がお作りになったこの世界を守るために、私はできることを今日から始めます」と話した。

「水俣・福岡展２０２３」は10月7日（土）から11月14日（火）まで、福岡アジア美術館で開催。福岡では10年ぶり2度目の開催で、会期中は毎日講演会等のホールプログラムの他、写真展や物産展などもある。※吉永理巳子氏のインタビューを次号に掲載いたします。

人といのちをつなぐ「日々の食」
―講演と対談の集い―

対談する伊藤神父（右）と吉田氏（左）

9月18日（月・敬老の日）、大名町教会大聖堂を会場に、「食といのち―食は人をつなぐ、いのちをつなぐ」と題して講演と対談の集い（主催、教区宣教・養成委員会　委員長レナト・フィリピーニ神父）が行われた。講師は、新潟教区糸魚川教会主任司祭の伊藤幸史（こうし）神父。

伊藤神父は大要次のように語った。「日々の食」は栄養やカロリーの問題にとどまらず、心にかかわること。「自分はダメな人間、必要とされていない」という自己否定、それから生じる「心の闇」は、しばしば「食」がないがしろにされているから。日々の食は「生への肯定感」を育む根っこであり、共にする食事は、「あなたは大切な存在」というメッセージを発して人を真に生かす。家庭の食卓によって子どもは心豊かに育つ。イエスは、罪びととされた人たちとしばしば食事を共にし、一人ひとりをいつくしまれる御父の心を示された。それを今も再現するのが、最後の晩さんの記念であるミサ。ミサへ通じる日々の食卓は信仰生活の土台である。

伊藤神父は、自己肯定感の欠如に苦しむ人を迎えて長野県で「信州風の家」を主宰している。講演に続き、福岡で心の闇に苦しむ人に耳を傾け食事を共にする「小さな森イスキア」を主宰する吉田俊雄氏（大名町教会信徒）との対談が行われた。終了後のアンケートには、「食材を大切に個食も豊かな心で」、「子育て中に聞いていれば」など反響は大きく、「風の家」への献金として82、413円が贈られた。参加者120人

報告＝「食といのち」実行委員会

福岡教区人事異動

◆東　研師（聖ザベリオ宣教会・荒尾教会協力）
聖ザベリオ宣教会九州支部（宮崎県）へ

サンパウロ
福岡宣教センター
営業時間：
10：00～18：00
定休日：日曜日・祝日
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26
tel. 092-721-2032 ／fax. 092-739-3930
E-mail: fukuoka@sanpaolo.or.jp
レジナ アポストロールム

不動産全般／売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください
㈱ジャパン・スマイルか
代表取締役　マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092－761－8800
http://www.iruka-japan.com/

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社　森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811－7265

別れ・出逢い・旅立ち
草苑〔SOU-EN〕
カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。
木下株式会社
TEL 092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

知りたい！ 福岡教区内の修道会 宣教会⑰

福岡教区には現在30の修道会・宣教会から司祭・修道士・修道女が派遣され、それぞれのカリスマで働いておられます。
昨春より紹介している、その修道会や宣教会。第17回は、イエスのカリタス修道女会です。

イエスのカリタス修道女会

アントニオ・ガヴォリ神父

イエスのカリタス修道女会は、1937年8月15日にサレジオ会宣教師アントニオ・カヴォリ神父によって創立された修道会です。当時、巷にあふれていた貧しい老人、孤児、乳児たちのために「救護院」を立ち上げ、彼らの世話を継続的に行うために、本修道会が設立されました。「カリタス」の名称は創立者が宣教師としてイタリアから日本に派遣される際、当時の総長からの、はなむけの言葉「人々の心を得るための唯一の手段はカリタス（愛徳）である」に由来しており、発祥の地である「宮崎」の地名を付け、「宮崎カリタス修道女会」としていましたが、2009年の総会後、「イエスのカリタス修道女会」に名称変更されました。
昨年、創立85周年を迎えた歩みの中で現在は、韓国、南米、ヨーロッパ、東南アジア、アフリカ等15か国へとその活動の場を広げています。福岡教区には3支部がお世話になっています。
「福岡修道院」は、1962年に当時の教区長からの要請を受けて「カトリック聖クララ幼稚園」の事業を継承し誕生した修道院で、現在は4人のシスターが生活しています。
「門司修道院」は，他法人が運営していた育児園を1979年に行政から委託され、社会福祉法人カリタスの園が「天使育児園」として事業継承したことにより設立された修道院で、3人のシスターが生活しています。
「新田原修道院」は1981年幼児教育のため「聖マリアの園幼稚園」が設立されたことにより誕生しましたが、2005年に閉園され、現在は4人の共同体で教会奉仕をしながら宣教活動に励んでいます。
これからも、「イエスの聖心の愛の使徒として、貧しい人、苦しんでいる人に憐れみ深い愛の業を行う」という原点を忘れず、使徒職と宣教活動を通して、教区の皆様と共に歩んで参ります。

カトリック障がい者連絡協議会　長崎全国大会
「ともに…つんのうで」一緒に行こう

大会で知り合った横浜教区の青年（右から2番目）とコルベ記念館前にて

10月14日から15日まで、長崎純心大学において第14回カ障連長崎全国大会が開催された。テーマは「ともに…つんのうで」（長崎弁で一緒に行こうという意味）。前回の横浜大会以来5年ぶりの開催。全国から173人、スタッフを含めると総勢558人。菊池教会と山鹿教会からは、アルバの会（視覚障がい者4人＋協力者1人）のメンバー、介助と車運転等の協力者、主任司祭シルバノ・ダロイト神父と共に13人が参加した。
初日の基調講演では本大会の主要課題の一つ、～誰ひとり取り残さない社会～「インクルーシブ防災」をテーマに、弁護士で元熊本学園大学教授の東俊裕氏が、災害時における障がい者支援の問題点について語り、その後、12の分科会が行われた。夕方の交流会では、他教区、他教会の方と知り合うことを心がけた。
2日目の感謝ミサは、前田万葉枢機卿（大阪大司教区長）臨席のもと、長崎教区長の中村倫明大司教司式にて執り行われ、第二朗読では、盲目の男性が点字で神のみ言葉を朗々とした声で伝えた。山鹿教会の求道者で全盲の男性（40代）は、「自分の障がいが意味あるものに思える。ミサの間、そこにイエス様がいらっしゃるように思えた」と語った。
名古屋、京都、東京教区の教会の積極的な取り組みに比べ、九州全体の障がい者に対する意識は低いようである。今回の九州初の長崎全国大会を機に、教区全体の信徒たちが障がい者や高齢者にもっと関心を持ち、障がい者とともに歩める教会になるよう取り組んでいく必要がある。3年後の名古屋大会へは、教区内のもっと多くの障がい者たちと、ともに歩む協力者たちがグループで参加に踏みだせるよう、聖霊来てください。

報告＝菊池教会・山鹿教会　参加者一同

幼きイエスの聖テレジア生誕150周年記念講演会「イエスとともに生きる」

講師の中川神父

10月1日（日）に大名町教会にて、「幼きイエスの聖テレーズ生誕150周年記念講演会」が福岡地区信徒使徒職協議会主催で開催された。講師はカルメル男子修道会宇治修道院院長の中川博道神父。司祭、シスター、信徒など、およそ160人が参加した。
9時半から年間第26主日のミサが中川神父司式で執り行われ、テレーズの生い立ちや時代背景などのビデオ上映の後、13時から講話が始まり15時に終了した。
講話のテーマは「テレーズのように宣教する」。フランシスコ教皇は、『回勅ラウダート・シ』の中で「テレーズは、愛の小さき道を実践すること、優しい言葉をかけ、微笑み、平和と友情を示すささやかな行いのあらゆる機会を逃がさないように」と呼びかけている。中川神父は、「テレーズは弱い時こそイエスに頼った。カルメル修道会のアビラのテレサと、十字架のヨハネの神との体験からイエスと生きる意味を学んだ。今、宗教を生きることの意味が問われている。1980年から健康の定義が見直され、霊性の必要性が言われているが、アビラのテレサは、『真実の霊性は内向きで個人主義的ではない。イエスと共にいる人は行動もイエスと同じになる』と言う。福音宣教とは外に出て行動することだけではなく、テレーズのように祈りと犠牲、そして生きているイエスに出会い、イエスと共に生活することでもある。今、私たち一人ひとりが日々の小さなことをイエスと共に行動することで世界は変わるのだ」と熱く語られた。そして最後に1分間の念禱をして講話は終了した。西新教会の参加者からは、「心に響くお話を聞けました。またこのような講話があれば是非呼んでください」との感想をいただいた。
講演開催を引き受けてくださった福岡地区信徒使徒職協議会の皆様には、心より感謝申し上げます。

報告＝跣足カルメル在世会　福岡共同体・会長　四宮まち子（大名町教会）

秋の一日にスポーツで汗を！ 筑後地区レクリエーション大会

各教会から、精鋭たちが勢ぞろい！

9月18日（月・祝）、早朝からの雨も回復し、筑後地区6教会より総勢160人の信徒が、大刀洗町勤労者体育センターに集い久しぶりの交流を楽しんだ。4年ぶりとはいえ、感染症や熱中症対策を行いながらの大会であった。地区長の田中重治神父（大牟田教会主任）の開会あいさつとお祈りの後に準備体操、そしてサークルゲームの中で自己紹介を交えながら笑顔のうちに大会がスタートした。
昼食をはさみ、各小教区代表による現状の報告が行われ、二日市教会では新聖堂建築に対しての御礼、今村教会は天主堂工事に伴う進捗状況がパネルで紹介された。共通の課題として信徒の高齢化が進んでいる事や各教会の自慢などが報告された。午後からは敬老の日でもあり参加していた72歳以上の方々にプレゼントが配られた。それからウルトラクイズや子ども向けドッジビー大会、だれでも参加できるスリッパ飛ばしや玉入れ等で汗を流した。最後に福引大会、竹内英次神父（二日市教会主任）の祈りで無事閉会となった。
参加者全員に後片付けを手伝っていただいたが、口々に大会を準備されたボランティアへの感謝と、また来年も交流を楽しみにしていると話し、笑顔のうちに帰路につかれていた。

報告＝今村教会　佐々木義雄

海を渡った司祭たち

10月の世界宣教月間にあたり、韓国カトリック新聞社は、韓国テグ大司教区から九州（福岡・長崎）に派遣され、日本の神学校で学び司祭に叙階された4人の司祭イ・ハヌン神父、キム・ボム神父、ジョン・ウォンチョル神父、ナム・シジン神父のドキュメンタリー動画を制作しました。下記QRコードから御覧いただけます。

2. シノドス的教会を目指して（全3回）
糸島教会協力司祭　山口　好信神父（鹿児島教区）

一人ひとりの声を聴いてそれを教会運営に反映させていく、それが今回のシノドスの特徴です。「共に歩む」教会になるためです。2015年のフランシスコ教皇のシノドス設立50周年記念式典演説と『教会の生活と宣教におけるシノダリティ』という文書があります。その中に「逆ピラミッド」という言葉が出てきます。この言葉はぜひ覚えておくといいです。イメージとしてわかりやすいでしょう。ピラミッドだと、一番上に教皇がいて、その下に司教・司祭、底辺に多数の信徒がいる。上の者が支配し、与え、教える。下の者は治められ、授けられ、教えられるという受け身の形です。他方、逆ピラミッドだと、上に多数の信徒がいて、司祭・司教、一番下に教皇がいる。下のほうの教皇・司教・司祭は信徒に仕え信徒に奉仕することを意味します。これまでの教会はピラミッド型だったが、今後は逆ピラミッドにならなければならないと、教皇はこの演説でマタイ福音書第20章を引用して言っています。「イエスは弟子たちに語った。『よその国では支配者が民を支配し、偉い人が権力をふるっている。しかしあなたたちの間では、偉くなりたい者は、皆に奉仕する人になりなさい。上になりたい者は皆のしもべになりなさい。なぜなら私は皆に奉仕するため、命を捧げるために来たからである』と」。
「司祭も司教も皆さんの『しもべ』、奉仕者にならなければならない、それが聖書の教えです」と教皇は言います。そうすぐには「逆ピラミッド」の教会にならないでしょうが、少しずつ改革されるでしょう。最後に、なぜ改革が必要であり、また可能なのでしょうか？それは、一般信徒も司教・司祭も同じ信仰をいただいているのですから、何が正しいか何が必要かを考え判断するセンス（感覚）を信徒も司教・司祭も等しく持っているからです。信徒も司祭も共に祈りつつ皆で分かち合いながら進んでいくことがシノドス的な教会の姿です。

BOOK 読みは専科

☆ひとりだと感じたときあなたは探していた言葉に出会う
若松 英輔（著）

〈自分を支える言葉は、実は自分自身の中にすでにある〉 生きていくうえで、何が大切なのか。どこを目指して進めば良いのか。迷いのなかから再び立ち上がり、前を向いて歩き始めるために、「自分だけの一語」を探す心の旅の導きとなる一冊。
亜紀書房発行
税込価格1760円

社会医療法人 雪の聖母会

聖マリア病院
〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942(35)3322　FAX.0942(34)3115
聖マリアヘルスケアセンター
〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5
TEL.0942(35)5522　FAX.0942(34)3306
信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん
ご一緒に働いてみませんか
URL：http://www.st-mary-med.or.jp/

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション
自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。
費用は医療、介護保険でのご利用になります。
春日市天神山7-91　TEL&FAX 092-517-6313
福岡プライマリケア株式会社　代表：エリザベト熊谷

年間目標　出向いて行く教会となる

自死された方々のために捧げる追悼ミサ

身近な人を自死で失った方、ともに祈りをささげましょう。当日参列できない方も意向をお受けします。（無料）
［日　時］11月6日（月）10時30分～12時（交流会含む）
［場　所］サンパウロ福岡宣教センター３F（聖パウロ修道会）
［司　式］青木悟神父（小倉教会主任）
［問合せ先］fukuoka.yurinokai@gmail.com（叶堂）

福岡オリーブの会

長らく休会していたオリーブの会（精神障碍者とその家族）の集まりを再開します。関心ある方はご参加下さい。
［代　　表］江上博昭
［同伴司祭］大山悟神父
［日　　時］11月26日（日）14:00～16:00
［場　　所］福岡カトリック神学院　福岡市城南区松山 1-1-1
［参加費］無料（事前連絡不要）
［問合せ先］TEL092-871-4943 大山悟神父

シスターと一緒に イエス様の声を聞いてみませんか Part 2 来てみんしゃい！！

［日　時］11月23日（木）10:30～16:00（昼食込み）
［場　所］聖心のウルスラ宣教女修道会
［対　象］高校生・青年・独身者
［問合せ先］TEL 092・512・0033（聖心のウルスラ宣教女修道会・福岡修道院）

いのりをともに ～聖体礼拝とキリスト教的ビパッサナー瞑想～

［日　時］11月25日（土）、12月16日（土）16時～20時
［内　容］晩の祈り・キリスト教的ビパッサナー瞑想・夕食（食べる瞑想）・聖体礼拝
＊部分参加可
［場　所］大濠カトリック会館・宣教養成センター（福岡市中央区大濠 1-7-14）
［問合せ先］TEL 080・4735・6971（礼拝会）

熊本地震復興支援　西原村復興寄姫（よりひめ）伝説米 購入支援のお願い

いつもあたたかいご支援をいただきまして、本当にありがとうございます。

加藤ご夫妻

西原村は、今年の７月３日夜から４日朝にかけて豪雨に見舞われました。田んぼの高い土手はズタズタに崩れ無残な姿になりました。田んぼの再生を断念された農家もたくさんあります。水路が復旧不可能の状態になり、一帯の耕作をあきらめた農家もあります。それでも残った田んぼを必死に守り、稲を育て立派に収穫を迎えることが出来ました。

皆様に米を買っていただくことを励みとしてここまで来られましたことを心から感謝いたします。

どうか今年も皆様のあたたかいご支援を心からお願い申し上げます。　NPO法人・阿蘇　代表：加藤　義明

＊お米の注文は各小教区にある注文書でお申し込み下さい。また右記ＱＲコードからも注文書がダウンロード出来ますのでご活用ください。
※詳細は福岡教区ホームページをご覧ください。
教区ＨＰ　http://fukuoka.catholic.jp/help/

― 召命を祈る集い ―

福岡地区　11月21日（火）13時半～ 二日市教会
〔問合先〕☎ 092-921-4532　山口
北九州地区　11月18日（土）11時～ 小倉教会
〔問合先〕☎ 0949-24-9905　藤井
熊本地区　11月21日（火）
福岡カトリック神学院（旧大神学院）感謝祭参加
〔問合先〕☎ 0969-79-0015　浦川務神父（大江・崎津・本渡教会主任）

― 各種団体の定例会 ―

詳細につきましては、福岡教区ホームページ「教区報11月号」、または右記QR コードからご確認ください。

福岡教区広報室アドレス
http://fukuoka.catholic.jp
E-mail:cdf-kouhou@nifty.com

案　内　板　　会合と催し

第74回　福岡市民クリスマス

日　時：12月1日（金）
開 場 18時　開 演 18時30分
場　所：福岡市民会館大ホール
内　容：
クリスマスメッセージ
田口昭典牧師（福岡ベタニヤ村キリスト教会）
クリスマスコンサート
福岡女学院中高等学校
ハンドベルクワイア
※詳細は右記QRコードからご確認ください。

真命山諸宗教対話センター　- 祈りの集い -

年間テーマ：聖性への招き
日　　時：11月9日（木）10時～15時
内　　容：聖グィド・マリア・コンフォルティ
指 導 者：C.クラウディオ神父（聖ザベリオ宣教会）
次　　回：12月14日（木）
内　　容：聖フランシスコ・ザビエル
指 導 者：C.クラウディオ神父（聖ザベリオ宣教会）
問合わせ先：真命山諸宗教対話センター
☎0968・85・3100 FAX 0968・85・3186
熊本県玉名郡和水町蜷浦1391-7
E-mail　shinmeizan@gmail.com
☆個人またはグループでの黙想会、研修会も歓迎いたします（要予約）

※福岡教区で奉仕された司祭の帰天日は右記ＱＲコード、または教区ホームページのカレンダーでご確認ください。

11月のこよみ

5日（日）　年間第31主日　佐賀教会司牧訪問
不動山殉教祭（佐賀）
8日（水）　福岡教区幼児教育連盟
9日（木）　ラテラン教会の献堂
10日（金）　カトリック学校懇談会（久留米・聖マリア学院大学）
12日（日）　年間第32主日　久留米教会堅信式
福岡地区信徒養成講座・ミサ（大濠会館）
13日（月）　日韓司教交流会（～16日）
18日（土）　北九州地区　召命祈願ミサ司式
19日（日）　年間第33主日　貧しい人のための世界祈願日
聖書週間（～26日まで）
大名町教会司牧訪問　聖体奉仕者任命式
21日（火）　神学院感謝祭
26日（日）　王であるキリスト　世界青年の日
古賀教会司牧訪問
28日（火）　第３回　教区全司祭集会
29日（水）　使徒職の会 ミサ司式
30日（木）　聖アンデレ使徒　宗教法人幼稚園理事会
【12月】
3日（日）　待降節第１主日　高宮教会司牧訪問
■ゴチックは司教日程

― 聖書週間　11月19日～26日 ―

聖書週間は、聖書に親しみ、聖書をより正しく理解するために、特に関心を持って取り組みを行うようにと始まった週間で、毎年、リーフレット「聖書に親しむ」とポスターが制作されます。

聖書に「より強い関心をもち、親しみ、神の心に生きるように」なるための「聖書週間」ですが、年に一回の機会だけでなく、常に「聖書『習慣』」を身に付けることを実践できますように。

集いの詳細は、各問合せ先にお尋ねください。

■北九州地区宣教司牧評議会主催　聖書講座・聖書をどう読むか　最終回「みことばを黙想し分かち合う」〔日時〕11月19日（日）14時～15時30分〔場所〕直方教会〔問合せ先〕☎０９３０・２２・０８０５行橋・豊津教会主任、下町豊重神父

■美野島司牧センター
○ホームレスの方に温かい食事と衣類　毎週火曜日10時
○ホームレス支援炊出し調理　第1・第3金曜日14時
夜回り　20時から
○路上からアパートに入居した方を訪問　第3土曜日14時
〔問合せ先〕☎０９２・４３１・１４１９コース・マルセル神父

■聖体といやしの家
ご聖体のある家でミサと礼拝のある今を過ごしてみませんか？必要があればシスターや社会福祉士が同伴できます。〔問合せ先〕☎０８０・４７３５・６９７１礼拝会

編集後記

中々寝付けない秋の夜長。そういう時、布団の中で聖書を読んでいると、その深い内容と分厚い聖書の重さに、段々頭も腕も疲れウトウトしてきます（神さまごめんなさい）。たまに腕からこぼれた聖書が顔面を直撃し、ウトウトどころか目がらんらんとすることがありますが、そういう時に読んでいた箇所は「酒に酔いしれてはなりません（エフェソ5・18）」などグサッとくることば…。

神さまはすぐ眠らせてくれたり、大事なところでは起こしてくれたり、まるで絵本を読んでもらっていた子どもの頃のよう。愛されているなあと幸せな気持ちになります。

読書の秋、そして今年の聖書週間と。今夜も神さまと一緒に聖書を開きます。（W）

Our Lady of Victory Cathedral (Daimyo-machi Catholic Church)

Janet Okoth ジャネット・オコア (Kenya)

Moving to Japan last year for my studies was one of the biggest steps I took in my life. I was far away from home, and I didn't think I could celebrate mass as often as I did back home. I grew up as a Catholic, and everyone from both sides of my parents' families was raised Catholic. So, for me, participation in the Sacraments in the church is life. The gentleness that God shows through the Catholic faith is unmatched, as He shows us the way but still gives us free will and is so forgiving.

I was overjoyed to find Our Lady of Victory Catholic Church in Daimyo-Machi Fukuoka, where they received me warmly and embraced me as one of their own. I have been attending the Sunday afternoon English Mass and the community has been so welcoming. We recite the Rosary every Sunday before Mass and help to sing in the choir. Occasionally, I get to attend the morning Japanese Mass, where they are equally warm, and I love to see how solemn they celebrate it too. I am amazed at the similarities we share as the Universal Church and reminded continually that we are united in one faith.

Being able to center my life in Japan around my faith has helped me settle as it is familiar to me. I have made new friends and learned new languages and cultures. I hope that many others will find this hidden treasure and I will also extend a welcoming hand to others who come to visit or live in Fukuoka.

ジャネットさんの幼児洗礼式の時の様子

昨年、留学のために日本に来たことは私にとって人生最大の挑戦でした。故郷から遠く離れ、ミサには頻繁にあずかれないだろうと思っていました。私は幼児洗礼で、母方も父方も家族全員がカトリックの信者なので、教会での秘跡への参加は私の人生そのものです。カトリックの信仰を通して神が示してくださる優しさは、比類ないものです。神は私たちに道を示しながらも、自由意志を与え、とても寛容です。

私は大名町教会を知りとても嬉しかったです。教会の皆さんは私を温かく迎えてくださり、最初から仲間の一員として受け入れてくださいました。普段は英語のミサに参加していますが、信者さんたちは初日から温かく歓迎してくださいました。今は毎週日曜日のミサの前にはロザリオを唱え、聖歌隊でも奉仕しています。時々朝の日本語のミサに参加することもありますが、日本人の信者さんたちも同様に温かく迎えてくださいます。日本語のミサは比較的厳かで、そういうミサに参加するのも大好きです。ですが、それぞれのやり方はやはり似ているため、「カトリック」という単語がそもそも「普遍」を意味すること、私たちがひとつの信仰で結ばれていることを絶えず思い知らされます。

私が日本での生活の中心を信仰に置けたことは、信仰が身近にあるため、この地で生活するのに役立ちました。大名町教会に通い始めてから新しい友だちができただけではなく、新しい言葉や文化も学んでいます。より多くの人たちが大名町教会のよさを味わう機会があれば幸いです。感謝の気持ちを込め、これからも福岡市に来る人たちに歓迎の手を差し伸べたいと思います。

10代～40代のみなさま
こんな悩みをお持ちでないですか？
相談は無料です。
必要に応じて専門機関の情報提供もいたします。ひとりで悩まずに、お気軽にご相談ください。秘密は厳守します。

安心してお話が出来る人をお探しの方へ。
メール：hanahanahimawari2020@gmail.com
☎：080-4735-6971（9:00－21:00）
※対応できないときもあります。
※ 原則１回 30 分です。
LINE 右記 QR コード
―ぷろじぇくとHana―
ぷろじぇくとHanaは、社会福祉士・看護師・シスターなどが在籍している、礼拝会を中心としたグループです。

福岡教区セクハラ対応窓口

セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談ください。ひとりで悩まず、早めに相談

セクシュアル・ハラスメント相談窓口
電話　080-2694-4182
受付時間　月～金（祝日を除く）
10:00 ～ 12:00　13:00 ～ 16:00